

平成30年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年6月12日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東  
 コード番号 2929 URL http://www.pharmafoods.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祐  
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部部长 (氏名) 新谷 義信 TEL 075-394-8600  
 四半期報告書提出予定日 平成30年6月13日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年7月期第3四半期の連結業績（平成29年8月1日～平成30年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年7月期第3四半期	5,918	74.0	△238	—	△194	—	△194	—
29年7月期第3四半期	3,401	34.7	△193	—	△152	—	△181	—

(注) 包括利益 30年7月期第3四半期 △188百万円 (-%) 29年7月期第3四半期 △168百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年7月期第3四半期	△6.70	—
29年7月期第3四半期	△6.25	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年7月期第3四半期	5,904	3,401	57.3
29年7月期	5,843	3,592	61.2

(参考) 自己資本 30年7月期第3四半期 3,382百万円 29年7月期 3,577百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年7月期	—	—	—	—	—
30年7月期	—	—	—	—	—
30年7月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年7月期の連結業績予想（平成29年8月1日～平成30年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,500	58.8	200	123.6	195	35.6	140	38.2	4.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年7月期3Q	29,034,200株	29年7月期	29,034,200株
② 期末自己株式数	30年7月期3Q	－株	29年7月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年7月期3Q	29,034,200株	29年7月期3Q	29,034,200株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、家計におけるサプリメント支出額が高い水準を維持するなど、高齢化社会の進展による人口構造の変化で、健康や美容に対する意識はますます高くなっています。また、インターネットやドラッグストアでの販売の増加など、健康食品や化粧品の販売チャネルは多様化しつつあります。

このような環境下において、当社グループは「医薬」（Pharmaceuticals）と「食」（Foods）の融合「ファーマフーズ（Pharma Foods）」を実現するため、健康維持と生活の質の向上に役立つ機能を明確に持つ食品素材、健康食品、化粧品の開発、そして医薬品の創製を目指し、事業展開を行って参りました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、5,918百万円（前年同期比74.0%増）、営業損失238百万円（前年同期は193百万円の損失）、経常損失は194百万円（前年同期は152百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は194百万円（前年同期は181百万円の損失）となりました。

なお、前第3四半期連結会計期間から当第3四半期連結会計期間までの各四半期の業績推移は、以下のとおりです。

	前第3四半期 連結会計期間	前第4四半期 連結会計期間	当第1四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間	当第3四半期 連結会計期間
売上高（百万円）	1,392	1,320	1,613	2,060	2,244
営業損益（百万円）	303	283	△483	△379	623
経常損益（百万円）	328	296	△455	△377	637

セグメントの業績は次の通りであります。

## (機能性素材事業)

国内事業においては、「GABA」を採用した機能性表示食品の届出・販売の増加により、売上は堅調に推移しています。「ボーンペップ」は、ロート製薬株式会社及びオハヨー乳業株式会社により、それぞれ「セノビック」ブランドの粉末飲料、ヨーグルトとして展開されているほか、その他国内メーカーへの販売も含め拡大に努めました。「HGP」は、食べる育毛素材として、流通・健康食品メーカー各社より注目されており、OEM製品として受注するなど注力しており、一層の拡大に努めております。

海外事業においては、北米及び中国ともに「GABA」に引き続き注力しているほか、「ボーンペップ」は中国においても堅調に推移するなど、機能性素材事業の拡大に寄与しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、連結売上高1,133百万円（前年同期比39.4%増）、セグメント利益は338百万円（前年同期比92.7%増）となりました。

## (通信販売事業)

サプリメントの分野においては、膝関節用サプリメント「タマゴサミン」を中心に注力し、テレビやラジオ等マス媒体に対し積極的に広告宣伝投資を行い、新規顧客の拡大に努めてまいりました。顧客獲得単価の抑制や、定期購入の継続率の向上に成功したことで、収益力がますます強化されています。

化粧品の分野においては、「珠肌のうみつ」「珠肌ランシエル」等の拡大に注力し、マス媒体に加えWEB広告の充実にも取り組み、購入層が拡大しています。また、QVCやショッピングチャンネル等TVショッピング専門チャンネル向けの販売も展開しております。従来からの通信販売事業が伸張していることに加え、前期に子会社化した株式会社フューチャーラボの業績が寄与しています。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、連結売上高4,759百万円（前年同期比86.8%増）、セグメント損失520百万円（前年同期は320百万円の損失）となりました。

## (バイオメディカル事業)

創薬事業では、当社独自のニワトリ抗体作製技術「ALAgene（アラジン・Avian Lead Antibody GENE）」を用いて新規抗体医薬を創製する「悪性腫瘍プロジェクト（標的分子：FSTL1）」、「関節リウマチプロジェクト（標的分子：PAD4）」、及び卵黄由来の骨形成ペプチド「リプロタイト」による医薬品開発を目指す「骨形成プロジェクト」に引き続き注力してまいりました。

「悪性腫瘍プロジェクト」において、国立がん研究センターとの共同研究において、同センターが大量に保有する各種ヒト悪性腫瘍組織について、FSTL1の発現解析を順次行うなど、すべてのプロジェクトについて、公的研究機関と共同研究を推進しつつ、国内外の複数の製薬企業と提携交渉を継続しております。

また、「リプロタイト」は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の「平成30年度 難治性疾患実用化研究事業」において、国立大学法人東京大学との共同研究事業として選定されております。東京大学と共同で骨形成不全症の骨脆弱性を改善する治療薬の創薬候補として、リプロタイトの可能性を検証し、医薬品の開発を目指してまいります。

このほか、食品メーカー等より分析・効能評価試験を受託するLSI(Life Science Information)事業や、製薬企業や大学等より医薬品・診断薬開発目的のための抗体作製受託に取り組んでおります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、連結売上高25百万円(前年同期比36.8%減)、セグメント損失57百万円(前年同期は49百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ60百万円増加し、5,904百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の増加311百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ251百万円増加し、2,502百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加91百万円並びに未払金の増加117百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ190百万円減少し、3,401百万円となりました。これは主に、利益剰余金の減少194百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年7月期の連結業績予想につきましては、平成30年2月9日に発表しました業績予想値から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,861,102	2,710,215
受取手形及び売掛金	593,293	904,839
商品及び製品	564,792	457,445
仕掛品	4,093	9,450
原材料及び貯蔵品	35,210	37,317
その他	308,786	225,550
貸倒引当金	-	△4,800
流動資産合計	4,367,279	4,340,018
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	269,391	262,967
機械装置及び運搬具(純額)	3,127	2,217
工具、器具及び備品(純額)	45,720	42,701
土地	387,863	387,863
リース資産(純額)	6,819	19,540
建設仮勘定	5,400	7,258
有形固定資産合計	718,322	722,549
無形固定資産		
のれん	241,678	238,085
その他	43,705	41,431
無形固定資産合計	285,384	279,516
投資その他の資産		
投資有価証券	39,752	142,756
関係会社長期貸付金	129,950	105,151
その他	303,386	314,479
貸倒引当金	△200	△200
投資その他の資産合計	472,889	562,187
固定資産合計	1,476,595	1,564,253
資産合計	5,843,875	5,904,271

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	139,285	230,405
短期借入金	50,000	50,000
未払金	236,208	353,733
1年内返済予定の長期借入金	446,716	467,183
賞与引当金	8,369	7,920
その他	205,092	251,915
流動負債合計	1,085,672	1,361,158
固定負債		
長期借入金	1,087,693	1,059,990
退職給付に係る負債	37,002	29,402
その他	41,021	51,974
固定負債合計	1,165,716	1,141,366
負債合計	2,251,389	2,502,524
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,031,278	2,031,278
資本剰余金	1,881,982	1,882,910
利益剰余金	△354,117	△548,698
株主資本合計	3,559,144	3,365,490
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,513	15,048
為替換算調整勘定	2,733	2,084
その他の包括利益累計額合計	18,247	17,133
新株予約権	8,217	4,032
非支配株主持分	6,877	15,090
純資産合計	3,592,486	3,401,746
負債純資産合計	5,843,875	5,904,271

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日)
売上高	3,401,870	5,918,553
売上原価	700,396	1,154,192
売上総利益	2,701,474	4,764,361
販売費及び一般管理費		
研究開発費	176,820	199,941
広告宣伝費	1,552,569	3,212,706
支払手数料	323,475	371,000
のれん償却額	11,502	28,148
その他	831,058	1,191,255
販売費及び一般管理費合計	2,895,426	5,003,053
営業損失(△)	△193,952	△238,691
営業外収益		
受取利息	6,670	5,538
受取配当金	200	100
為替差益	3,862	4,098
補助金収入	28,402	14,517
持分法による投資利益	-	8,377
受取補償金	-	21,077
その他	16,816	11,042
営業外収益合計	55,952	64,751
営業外費用		
支払利息	4,099	3,765
持分法による投資損失	3,089	-
解約違約金	4,629	-
商品回収等関連費用	-	15,131
その他	2,628	2,009
営業外費用合計	14,447	20,906
経常損失(△)	△152,447	△194,847
特別利益		
新株予約権戻入益	2,310	4,185
投資有価証券売却益	-	19,737
特別利益合計	2,310	23,922
特別損失		
関係会社株式売却損	15,574	-
特別損失合計	15,574	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△165,712	△170,924
法人税等	13,022	16,915
四半期純損失(△)	△178,735	△187,840
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,847	6,740
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△181,582	△194,581



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日)
四半期純損失(△)	△178,735	△187,840
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△644	△464
為替換算調整勘定	11,094	△649
その他の包括利益合計	10,449	△1,114
四半期包括利益	△168,285	△188,954
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△171,132	△195,695
非支配株主に係る四半期包括利益	2,847	6,740

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計(注)
	機能性素材事業	通信販売事業	バイオメディカル事業	
売上高				
外部顧客への売上高	813,301	2,548,245	40,323	3,401,870
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	813,301	2,548,245	40,323	3,401,870
セグメント利益又は損失(△)	175,836	△320,105	△49,683	△193,952

(注)セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間において、株式会社フューチャーラボの株式を取得し、同社及び同社の子会社を連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「通信販売事業」セグメントにおいて、1,520,787千円増加しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「通信販売事業」セグメントにおいて、株式会社フューチャーラボの株式を取得したことにより、同社を連結子会社としております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、249,132千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成30年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計(注)
	機能性素材事業	通信販売事業	バイオメディカル事業	
売上高				
外部顧客への売上高	1,133,448	4,759,631	25,473	5,918,553
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	1,133,448	4,759,631	25,473	5,918,553
セグメント利益又は損失(△)	338,914	△520,304	△57,301	△238,691

(注)セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「通信販売事業」セグメントにおいて、連結子会社である株式会社ファーマフーズコミュニケーションが株式会社ファーマフーズコミュニケーション東海を平成29年9月1日付で吸収合併しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、21,281千円であります。